

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚扁平上皮癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	有棘細胞癌におけるリンパ節転移のリスク因子. :	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	SCC-CQ11-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2005155023	
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	19	
	号		
	ページ	359-363	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 1 )	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	竹之内辰也	新潟がんセンター
	その他著者 1	勝海 薫.	同
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	リンパ節転移のリスク因子を調べる		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	新潟がんセンター		
	対象者	新潟がんセンターで 1993-2002 年までの間に治療を受けた SCC 118 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1 )		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15 )		
	介入 (要因曝露)	年齢、性、部位、腫瘍径、腫瘍の厚さ、浸潤レベル、浸潤様式		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	リンパ節転移	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
		2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
		10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	年齢、性別、発生部位、腫瘍径、Tumor thickness, Level,浸潤様式 (胃癌に準ずる) の計 7 因子について多変量解析を行った。有意な相対リスクを示したのは、手足の原発 (頭頸部に対する OR : 8.3)、浸潤様式 IFN $\gamma$ (浸潤性増殖、周囲との境界不明瞭) が IFN $\alpha$ (膨張性増殖で周囲と一線を画す) と $\beta$ ( $\alpha$ と $\gamma$ の中間) に対して OR:5.9 であった。		
	結論	手足原発、IFN $\gamma$ (浸潤性増殖、周囲との境界不明瞭) を示す SCC はリンパ節転移のハイリスク症例として扱うべきである。		
	備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	宇原 久		

	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） リンパ節転移のリスク因子として多くの因子が報告されてきているが、多変量解析を行った研究はほとんどない。貴重なデータである。
--	------------	--